

— 神現祭聖体礼儀 —

いつもと違うところ

2015 Nagoya

---始まりから大連祷までいつもと同じ---

第1アンティフォン 第113聖詠

ソロ 附唱、救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

右 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

第1アンティフォン 附唱

救世主や 生神女の祈禱によつて、我等を救いたまえ

ソロ 第一句、イスライリ エジプトより出で、イアコフの家異邦民より出でし時、

左 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

ソロ 第二句、イウダは神の聖所となり、イスライリは其領地となれり。

右 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

ソロ 第三句、海は見て走り、イオルダンは後へ退けり。

左 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

ソロ 第四句、海よ、爾何事に遭ひて走りしか、イオルダンよ、爾何事に遭ひて後へ退きしか。

右 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

☆ソロ 光荣、今も、

両方 附唱 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

---小連祷---

第2アンティフォン 第114 聖詠

ソロ イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ

右 附唱 イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ

第2アンティフォン 附唱



ソロ 第一句、我喜ぶ、主の我が聲、我が祈りを聴きしに因る。

左 附唱 イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

ソロ 第二句、彼は其耳を我に傾けたり、故に我在世の日に彼を呼ばん。

右 附唱 イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

ソロ 第三句、死の病は我を圍み、地獄の苦は我に臨み、我辛苦艱難に遭へり、其時我主の名を呼べり。

左 附唱 イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

ソロ 第四句、主は仁慈にして義なり、我が神は慈憐なり。

両方 附唱 イオルダンに洗を受けし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

つづいて「光栄」、「今も」、

神の独生の子ならびに ^{ことば}言よ

死せざる者にして、我等を ^{すく}救はん為に ^{あまん}甘じて ^{しょうしんじょ}聖なる生神女、^{えいていどうじょ}永貞童女マリヤより 身を

取り、性を ^か易えずして 人と為り、十字架に ^{くぎ}釘うたれ、

死を以て ^{もつ}死を踏み破りし ハリストス神よ、

^{せいさんしゃ}聖三者の一として、^{いつ}父 及び ^{せいしん}聖神と共に ^{さんえい}讚栄せらるる主よ、我等を 救い給え。

---小連禱---

第3 アンティフォン 第117 聖詠

誦經者 (第一句)、主を讚榮せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐は世々にあればなり。

右 (讚詞、第1調) 主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、蓋父の聲爾を證して至愛の子と名づけ、聖神^oも鴿の形に顕れて言の確なるを示せり。現れて世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す。

誦經者 (第二句)、イズライリの家今言ふべし、彼は仁慈なり、其憐は世々にあればなり。

左 (讚詞、第1調) 主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、蓋父の聲爾を證して至愛の子と名づけ、聖神^oも鴿の形に顕れて言の確なるを示せり。現れて世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す。

誦經者 (第三句)、アアロンの家今言ふべし、彼は仁慈なり、其憐は世々にあればなり。

右 ((讚詞、第1調) 主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、蓋父の聲爾を證して至愛の子と名づけ、聖神^oも鴿の形に顕れて言の確なるを示せり。現れて世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す

誦經者 (第四句)、主を畏るる者今言ふべし、彼は仁慈なり、其憐は世々にあればなり。

左 ((讚詞、第1調) 主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、蓋父の聲爾を證して至愛の子と名づけ、聖神^oも鴿の形に顕れて言の確なるを示せり。現れて世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す。

(楽譜は次ページ)

主よ、なんじが イオルダンに 洗を受くるとき

聖三者の ^{けいはい}敬拝は ^{あらわ}顕れたり けだし ^{ちち}父の ^{こえ}こえ

爾を証して 至愛の子と名づけ 聖神も 鳩の形に ^{あらわ}顕れて

^{ことば}言の確かなるを示せり。あらわれて 世界を照らしし

ハリストス かみよ 光栄は なんじに 帰す。

小聖入

(詠) 来れ ハリストスの前に 伏し^{おが}拝まん、
神の子、イオルダンにおいて洗を受けし主や、
我等^{なんじ} 爾に「ア ril イヤ」を 奉^{たてまつ}る者を 救い給え、

単音の時はS

来たれ ハリストスの ま—えに 伏しおが ま—ん

か みの 子 イオルダンに 洗 を 受けし 主や、

なんじ 爾にア ril イヤを たてまつ るもの を すくいたま—え。

トロパリとコンダク)

<トロパリ (1調)> (いつもの「我が霊や」と同じメロディ) 第3アンティフォンに記載

主よ、爾がイオルダンに洗を受くる時、聖三者の敬拝は顕れたり、

蓋父の聲／爾を證して至愛の子と名づけ、／聖神^{はと}も鳩の形に顕れて^{ことば}言の確なるを示せり。

現れて／世界を照ししハリストス神よ、光榮は爾に帰す。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

<コンダク 4調> (ニコライのトロパリと同じ)

主よ、爾は今日世界に現れ、／爾の光は我等に印されたり、

我等爾を承け認めて歌ふ、／近づき難き光よ、

爾来り、爾現れ給へり。

【トロパリ】

主よ、なんじが イオルダンに 洗を受くるとき

聖三者の ^{けいはい}敬拝は ^{あらわ}顕れたり けだし ^{ちち}父の ^{こえ}こえ

爾を証して 至愛の子と名づけ 聖神も 鳩の形に ^{あらわ}顕れて

^{ことば}言の確かなるを示せり。あらわれて 世界を照らしし

ハリストス かみよ 光榮は なんじに帰す。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

コンダク 4調

主よ、爾は今日 世界に現われ 爾の光は我等に印されたり

我等爾を承け 認めてうたう 近づき難き ひかりよ

爾、来たり、爾現れたまえり

The musical score is written for a vocal line (Soprano) and a piano accompaniment (Trombone). It consists of three systems. The first system has the lyrics '主よ、爾は今日 世界に現われ 爾の光は我等に印されたり'. The second system has the lyrics '我等爾を承け 認めてうたう 近づき難き ひかりよ'. The third system has the lyrics '爾、来たり、爾現れたまえり'. The piano accompaniment consists of chords and single notes in the bass clef.

ハリストスによって洗を受けしもの

(聖なる神の代わり)

右 ハリストスに依って洗を受けしもの、ハリストスを衣たり、アリルイヤ

左 ハリストスに依って洗を受けしもの、ハリストスを衣たり、アリルイヤ

全員 ハリストスに依って洗を受けしもの、ハリストスを衣たり、アリルイヤ

全員 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

全員 ハリストスを衣たり、アリルイヤ

全員 ハリストスに依って洗を受けしもの、ハリストスを衣たり、アリルイヤ

ハリストスに よつて 洗を受けしもの ハリストスを 衣た - り

3回

アリルイヤ 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

ハリストスを 衣た - り アリルイヤ ハリストスによって

ポロキメン

主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。主は神なり、我等を照せり。
句、主を讃榮せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐は世々にあればなり。

ポロキメン 4調



主の名に依りて来る者は崇め讃めらる

主はかみなり 我等を照らせり。

使徒の誦読はティト書 302 端。

子ティトよ、神の恩寵、衆人に救を施す者は現れて、我等に、不敬虔と世俗の慾とを離れて、自ら制し、義と敬虔とを以て今の世に生を度り、望む所の福、及び大なる神、我等の救主イイススハリストスの光榮の現を待つことを教ふ。彼は我等の為に己を與へたり、我等を凡の不法より贖ひて、己の為に選ばれたる民、善行に熱心なる者を潔めん為なり。

然れども我等の救主神の恩寵と仁愛との顕れし時、彼は我等が行ひし所の義の功に由るに非ず、乃己の慈憐に由りて、重生の洗、及び聖神の復新を以て、我等を救へり。聖神は、即神之をイイススハリストス我等の救主に由りて、豊に我等に注げり、我等が彼の恩寵を以て義とせられて、望に循ひて、永遠の生命の嗣と為らん為なり。

「アリルイヤ」、第四調、神の諸子よ、主に獻ぜよ、光榮と尊貴とを主に獻ぜよ。句、主の聲は水の上に在り、光榮の神は轟けり、主は多水の上に在り

福音經の誦読はマトフェイ 6 端。

イイススガリレヤよりイオルダンに來り、イオアンに就きて、之より洗を受けんと欲す。イオアン彼を止めて曰く、我爾より洗を受くべきに、爾我に就くか。イイスス答へて彼に謂へり、今姑く許せ、蓋我等は是くの如く凡の義を尽すべし。是に於て之を許せり。イイスス洗を受けて、直に水より上れるに、視よ、天彼の為に開け、神の神鴿の如く降りて、其上に臨むを見たり、且天より声ありて云う、之は我の至愛の子、我が喜べる者なり。

--- 重連禱、ヘルビムの歌、信經、親しみの捧げものまで変わらない---

イルモス第9歌唱 「常に福」に代えて

我が霊よ、天軍より尊き童貞女、至浄なる生神女を讃め揚げよ。
 生神女よ、爾の位に合ひて能く爾を讃美する舌なし、天上の智慧も如何に爾を歌頌するを
 知らず。唯爾、仁慈の者として、我等の信を納れ給へ、我等の熱切なる愛を知ればなり、
 蓋爾は「ハリストティアニン」等の轉達なり、我等爾を崇め讃む。

常に福に代えて

我がたましいよ 天軍より尊き 童 貞 女

至浄なる 生神女を 讃めあげよ 生神女よ

爾の位くらに合ひて よく爾を讃美する 舌な - - - し

天上の 知恵も いかに 爾を歌頌するを知ら - - - ず

ただなんじ 仁慈の ものとして

我等の信を 入れたま - え

我等の 熱切なる 愛を 知ればな - り

けだなんじは ハリストティアニン等の轉達てんたつな - - - り

我等 なんじを あがめ讃 - む。

